

しい。さらに臨海部の特性を生かして、緑あふれる臨海ブルムナードを造成し、第二、第三の山下公園の出現を望みたい。完成の暁には、日本でもユニークな臨海都市となることうけあいである。

幸い、この地区について、現在本格的検討が進められているという。長期的展望に立った海の香りのする基本構想を期待したい。

○周辺部に地域の顔を

市周辺部にあたる港北、緑、旭、瀬谷、戸塚、港南、金沢の各区は、高度成長時代、都市化の大波をまともなうけ、全国まれにみる人口の急激な流入をみたところである。一戸建、中層、高層、ミニ開発住宅等々新しい市街地が形成されつつある。

だが、どこの地区へ行っても総じて街並みが同じような印象を受けるのは私一人だけではあるまい。緑なら緑、戸塚なら戸塚らしい、地域、地域の多様なうらおいのある街ができたらどんなに楽しいことか。つまり横浜の地域、地域のさまざまな顔があつてほしいのである。

私は戸塚に住んでちょうど一〇年。休みにはよく散歩する。先日、広重の絵にある東海道五拾三次の「戸塚」、柏

尾川の大橋のほとりに立つ。いま柏尾川は河川改修の真最中。「左りかまくら道」は、泥を満載した大型ダンプがひっきりなしに通る、道路端には空かんが散乱、砂ぼこりとともに新聞紙が舞い上る。

絵にある街道沿いのワラ屋根、亭々とした松、広々とした田園の風景は、いまはまったくない。といつて、昔のどんな風景を懐かしがる感傷も私にはない。

ただ、自然にスケッチを試みたくなるような戸塚らしい街のたたずまいを願うばかりである。

(神奈川県企画部企画調整室長)

横浜の「顔」と「心」を美しく

子安 精司(戸塚区 46歳)

諸外国を含めて、各地の都市にはおのおのものもつ个性的な美しさがあります。横浜市も国際港都としての美しさを是非持ちたいと思います。

さて、港の持つ機能は二つあると思いますが、その一つは力強いクレーンに象徴される「横浜市の力」で、もう一つは情緒と景観を看板にした「横浜市の顔」です。さらに

港湾都市としては、その背景になる「心」すなわち街並みが必要で。

大棧橋には多くの人が集りますが豪華船にのみ関心が寄せられています。横浜には「顔」も「心」も見るべきものが無いからでしょうか、観光船客もみんな素通りです。慣れない異国のトラック街道横断は、大変危険ですから観光客にとっては素通りも最善の策です。一日も早く能率的な貨物輸送道路を作ってください。それは港の力をより充実させるでしょうし、横浜の「顔」と「心」を結ぶ大前提なのです。

私は横浜には「顔」も「心」も無いといいましたが、街造りの関係者は、おのおの勢いいっぱい努力していることを、認めないわけではありません。先日、ある雑誌で新港ふ頭を公園にする構想が発表されましたが、私には想像もできなかったことです。ふ頭にはレンガ造りの記念すべき上屋があり、公園の先端には真白い帆船が浮かんでいました。是非とも実現し横浜の美しい顔にしたい。また別の話に横浜駅から山下公園へSLを走らせ、おとづれる人達に横浜を満喫していただくとか。山下公園には不似合な貨物線、それを生かす最良の方法です。

港は能率的に稼動し、一方観光資源として美しい「顔」をそろえられるなら、それにふさわしい街並を持たせたい。

関内の歩道はレンガタイル、ガス灯風の街路燈を見上げると電線も見えない。文明開化のルーツを自認するためにはやりたい事です。またここには残して置きたい建造物がいくつかあります。それ自体文化的な遺産であり、子孫に託す努力を惜しんではならないと思います。

美しい港、しっとりとした街路は、おとづれる人々のよい憩いの場、よい散歩道になるでしょう。観光客を素通りさせない港まちの景観を作りたいものです。

(馬車道商店街企画委員)

国際都市にふさわしい都市づくり

高見澤 一男 (港北区 64歳)

横浜にペリーが文明開化の火を燈して、すでに一世紀余が過ぎたが、貿易港として日本をリードして来た横浜港は戦前、戦後を通じて経済や文化、技術のあらゆる面で、国際社会に大きな貢献をしてきた。この横浜の将来を今後どのように発展させていかなばならないか、市民であるわれ